

## 平成27年度 授業シラバスの詳細内容

科目名(英)	スポーツリテラシーⅥ・スポーツビジネス実践(Sports LiteracyⅥ・Sports business practice)		授業コード	E001701
担当教員名	竹田 隆行、鈴木 照夫		科目ナンバリングコード	E30708
配当学年	3	開講期	前期	
必修・選択区分	選択	単位数	2	
履修上の注意または履修条件	他の科目を履修していなくても、この科目だけで理解できる内容になっています。			
受講心得	スポーツに対しては、各人がそれぞれのこだわり、考え方を持っています。こだわりは必要ですが、そこから新しい考えは生まれてきません。ゼロベースで物事を考える重要性を学んでもらいたい。			
教科書				
参考文献及び指定図書	スポーツ産業論 第6版(杏林書院)			
関連科目	スポーツビジネス・マネジメント概論、スポーツ経営学、地域とスポーツ、スポーツイベント実践			

授業の目的	<p>プロスポーツの経営について学びます。この講義は、大分トリニータとの提携講座です。トリニータの経営を学ぶことによって、プロスポーツビジネスを学びます。</p> <p>プロスポーツビジネスは、多くの事業収入を持っています。そのため、全体像が把握しにくい構造になっています。本講義では、実際の業務を知ることで、プロスポーツビジネスのビジネスモデルを知ることができます。</p> <p>また、スポーツイベントの仕組みを学ぶために、大銀ドームでの実習も行います。この講義は、理論+実学という実践的な内容で構成されています。</p> <p>プロスポーツのビジネスモデルは、基本的に種目が異なるだけで、他はほとんど同じです。つまり、ここで身につけたノウハウは、他のプロスポーツにおいても十分対応することができるのです。</p>
授業の概要	プロスポーツのマネジメントについて学びます。

○授業計画	
学修内容	学修課題(予習・復習)
<b>第1週：ガイダンス</b> 講義の説明を行います。	課題・確認
<b>第2週：ガイダンス</b> 講義の説明を行います。	課題・確認
<b>第3週： Jリーグ、大分トリニータの理念、活動について</b> Jリーグは、プロ野球と異なり、しっかりとした理念を持っています。当然、加盟するクラブも理念を持っています。リーグの理念、クラブの理念について学びます。	課題・確認
<b>第4週：試合運営について</b> 華やかなゲームを創り上げるためには準備が必要です。さらに、多くの人達の協力がなければなりません。ゲーム終了まで、何をどのようにしなければならぬのかを学びます。	課題・確認
<b>第5週：地域貢献について</b> Jクラブは、地域の文化装置として機能しているのです。そのためには、ステークホルダーとの関係構築が重要になります。関係を築くための取り組みを学びます。	課題・確認

<b>第6週：営業企画について</b>		
チケット販売、スポンサー獲得のためにどのように取り組んでいるのかを学びます。		課題・確認
<b>第7週：広報活動について</b>		
これまで学んだトリニータの事業活動をどのように広報しているのかを学びます。実際の広報活動の紹介や他のJクラブの広報活動についても学びます。		課題・確認
<b>第8週：実習</b>		
大銀ドームで実習を行います。		課題・確認
<b>第9週：実習</b>		
大銀ドームで実習を行います。		課題・確認
<b>第10週：実習</b>		
大銀ドームで実習を行います。		課題・確認
<b>第11週：実習</b>		
大銀ドームで実習を行います。		課題・確認
<b>第12週：グループミーティング</b>		
講義で学んだ内容、実習経験を活かして、大分トリニータがかかえている問題について、グループミーティングを行います。ミーティングの内容をまとめトリニータに解決策を提案します。		課題・確認
<b>第13週：グループミーティング</b>		
講義で学んだ内容、実習経験を活かして、大分トリニータがかかえている問題について、グループミーティングを行います。ミーティングの内容をまとめトリニータに解決策を提案します。		課題・確認
<b>第14週：グループミーティング</b>		
講義で学んだ内容、実習経験を活かして、大分トリニータがかかえている問題について、グループミーティングを行います。ミーティングの内容をまとめトリニータに解決策を提案します。		課題・確認
<b>第15週：プレゼンテーション</b>		
グループミーティングの結果を発表します。発表は、トリニータのスタッフの前で行います。		課題・確認
授業の運営方法	(1)授業の形式	「講義形式」
	(2)複数担当の場合の方式	
	(3)アクティブ・ラーニング	「アクティブ・ラーニング科目」
地域志向科目	カテゴリー I :ステークホルダーとの協働による課題解決型学修科目	
備考		

<b>○単位を修得するために達成すべき到達目標</b>	
<b>【関心・意欲・態度】</b>	これまで経験してきたスポーツ観にとらわれずに講義にのぞんで欲しい。
<b>【知識・理解】</b>	プロスポーツビジネスの仕組みを理解する。
<b>【技能・表現・コミュニケーション】</b>	観戦者の視点で企画、運営を考える。そして、実践する。
<b>【思考・判断・創造】</b>	ステイクホルダーとの関係構築を強化するための視点で物事を考え、判断する力を養って欲しい。

○成績評価基準(合計100点)			合計欄	100点
到達目標の各観点と成績評価方法の関係および配点	期末試験・中間確認等 (テスト)	レポート・作品等 (提出物)	発表・その他 (無形成果)	
<b>【関心・意欲・態度】</b> ※「学修に取り組む姿勢・意欲」を含む。		20点		
<b>【知識・理解】</b> ※「専門能力(知識の獲得)」を含む。		20点		
<b>【技能・表現・コミュニケーション】</b> ※「専門能力(知識の活用)」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を含む。		20点	20点	
<b>【思考・判断・創造】</b> ※「考え抜く力」を含む。		20点		
<b>(「人間力」について)</b>				
※以上の観点到、「こころの力」(自己の能力を最大限に発揮するとともに、「自分自身」「他者」「自然」「文化」等との望ましい関係を築き、人格の向上を目指す能力)と「職業能力」(職業観、読解力、論理的思考、表現能力など、産業界の一員となり地域・社会に貢献するために必要な能力)を加えた能力が「人間力」です。				

○配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安	
成績評価方法	評価の実施方法と達成水準の目安
レポート・作品等 (提出物)	[Sレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。 [Aレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。 [Bレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。 [Cレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。
発表・その他 (無形成果)	講義の中で、適宜質問をします。優れた解答をした者は、記録して加点することがあります。